

恵光通信 令和三年 正月号



今年是世界中が新型コロナウイルスに振りまわれ続けた一年でした。

今までの日常が日常でなくなり気落ちされている人々も多いこととお見舞い申し上げます

正福寺の恒例行事もとりやめとなり

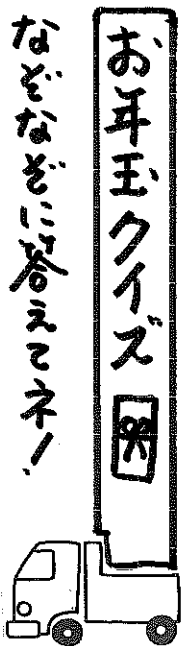
ましたが、改めて今まで行っていたことを省みて、改前した方が良い点に気付かせていただけたり、ゆくりじっくり考える為の時間を皆様からいただいたと感謝いたしております。



十二月六日には総代様、役員様、婦人会様、青年会様でお会式のお参りを致し日蓮大聖人様への報恩感謝と檀信徒皆様のご多幸をお祈り致しました。皆様へのお供えとして、婦人会の皆様と蒸したお赤飯を作りました。これは、まさしく時間的余裕がないと出来ないこと。今まで炊飯器でしかお赤飯を作ったことのない、た妙光は、「どのようにして赤い色をつけるのだろうか」と不思議に思っていたのがその謎が解けました。



炊飯器のお赤飯もおいしいけど、蒸した方は少し手間ひまをかける分おいしいなあと実感しました。婦人会の皆様にご教えたいただき、その後もう一回、自分で作ってみました。皆様は大慈悲をお持ち。苦しく辛い今の世の中であっても決して無駄な事、時間などなく、良いこと、楽しいこと、嬉しいこと、ありがたいことを与えて下さっていると感じました。



などなにに答えろネ!

- ① 丸頭のトラが乗っている乗り物は。
- ② いつも文句ばかり言っている動物。
- ③ お茶はお茶でも、子どもが喜ぶお茶は？
- ④ 食べると安心するケーキは何？
- ⑤ イスはイスでも、からくて、おいしいイスって何？
- ⑥ 口から出てくる「くび」って何？

答え・住所・名前をハカキに書いて正福寺に送って下さい。ささやかですがプレゼントをお送り致します。

〒710-0112 倉敷市藤戸町天城560 正福寺

※切はR3年1月15日

陽だまり法話

「俗名 山田太郎改め、法名を授与し〇〇〇〇信士と号す・・・」お葬式の時、お坊さんは、亡くなられた人に対して、戒名あるいは法名・法号を授ける為に引導文を読み上げる。引導とは、自分がこの世に生まれてきた意味や人間として進むべき道、方向が分からなかったり、欲望や誘惑に負け心が乱れ、よくない方向に進んでしまった私たちに仏の教え、人生の無常を説く。そして迷いの世界であるこの世から仏の世界（悟りの世界）に入る心構えを説くもの。亡くなられた人の魂は、この世で築き上げた財産、名誉、大切にしてきたものなど、一切の執着を捨て仏の世界に旅立つ。再びこの世に生をうけ、もし人間として生まれることができれば、生まれたばかりの時は純粹無垢な赤ん坊。煩惱や迷いは少なく清らかである。しかし、だんだん歳をとるにつれて、再び煩惱と迷いに染まっていく。仏様は私たちがどんな心の状態になっても決してお見捨てにはならず、心を改めて純粹な仏の性質に戻ってくるように考え、見守ってくださいている。このことを心にとどめておくことができるだけでも私たちの心は清らかになっていく。

○信解品第四「長者窮子の譬喻」より

一 譬 若 有 人	年 既 幼 稚	捨 父 逃 逝	久 住 他 国	或 十 二 十	至 五 十 歳	年 既 長 大	加 復 窮 困
ひ に や つ く う に じん	ねん き よう せ	しやがじようせい	くうじゆうたこく	わくじじゅうにじゅう	しじごじさい	ねんきちようだい	かふくうこん
ちちようしほう	いぐえじき	ぜんぜんゆぎよう	くうこくほんていこく	ごふせんちゆう	くしふとく	ちゅうじちゆうじゆう	
馳 騁 四 方	以 求 衣 食	漸 漸 遊 行	遇 向 本 国	其 父 先 來	求 子 不 得	中 止 一 城	

《右記の書き下し》

譬えば人あつて、年すでに幼稚にして父を捨てて逃逝し、久しく他国に住して、或いは十・二十より五十歳に至る。年すでに長大してますます復窮困し、四方に馳騁して以て衣食を求め、漸漸に遊行して本国に遇い向いぬ。その父先よりこのかた、子を求むるに得ずして一城に中止す。